



憲法記念日によせて 講演と合唱のつどい



2017.5.14 代田・九条の会

施行70周年にあたる今年の憲法記念日のつどいは、5月14日の日曜になった。いつもの教会で開くことができず、当会の呼びかけ人の一人の東演のマネージャー・横川功さんの好意で、小劇場・東演パラータで開催された。駅からは遠いので参加者が心配されたが、59名が参加する集会となった。

はじめに渋谷がじゅまる楽団の5人による島のうたで、三線の演奏とともに沖縄の民謡5曲が披露された。2曲目の「芭蕉布」は参加者も声をそろえた合唱となり、和気あいの雰囲気となった。東演パラータは、階段式の小ホールで正面に舞台があり、演劇的雰囲気が感じられ趣がある。

横川さんから、九条の会の催しを歓迎する挨拶と劇団の紹介を戴いた。

琉球新報社東京報道部長の新垣毅さんが、「命どう宝と平和主義」の演題で熱のこもった講演をされた。新垣さんは、基地が集中している沖縄の米軍基地がどういう配置でどういう役割を果たしているかを詳しく解説され、構造上問題があり最も危険なオスプレイがところ構わず我が物顔に飛行し、危険が増大していることを話された。普天間基地が市街地に有って危険だから新たに辺野古基地を作って移転させるとの名目で新基地を計画していることがまやかしかである。半永久的な新鋭基地の新設は、固定化に他ならない。危険ということではいざいざ危険である。

また、地上軍はほとんど海兵隊で第一線の出動部隊だから気が荒く性犯罪などの危険が高い。

基地の実情をつぶさに分かり易く説明され、やはり現地を熟知している人の話は説得力があり、沖縄の基地問題がいかに深刻であるかがよく分かり、対米追従で解決しようとする日本政府に怒りを禁じ得ない。

新垣さんが時を忘れるくらい熱心に話されたため少し質疑時間が短くなったが、定刻過ぎに充実した会は閉会した。

一言付け加えると、5月3日安倍首相は日本会議などの改憲派の集会にメッセージを寄せ、第九条を含む改憲を時限まで切って表明した。国会の三分の二の確保と高い支持率から、いよいよ念願の機熟したと国会の憲法審査会も無視するに至った。私ども九条の会は、その暴挙に正面から立ち向かい、平和憲法を守り抜かなければなりません。
(代田5丁目・野間口 至)



挨拶をする東演の横川 功さん

憲法記念日によせて・うたと講演のつどい アンケート より

1 渋谷がじゅまる楽団のうたについて

- ・ 沖縄に行った時に聞いたことのあるうたや三線だったが、こちらで聞くのも新鮮で、語りもよく、楽しく聞けました。
- ・ 5人の方々の呼吸もあってとても快い演奏でした。沖縄の竹富島や石垣、宮古島の風、首里城の石だたみなど思い出しながら聞き入りました。
- ・ 生演奏で、沖縄の唄や楽器、節回しを普段なかなか聞く機会がないので、とてもよかったです！
- ・ 沖縄のうたはいいですね。
- ・ 心にしみる沖縄音楽に触れさせていただきました。
- ・ 本格的な沖縄民謡と音楽を美しく。良い時間をありがとうございました。
- ・ 和気あいあいの雰囲気、芭蕉布などは皆で合唱して楽しかった。



渋谷がじゅまる楽団のみなさん
華やかな衣装は白黒では残念ながら出せません

2 新垣 毅さんの講演について

- ・ マスメディアを通じて聞くのと違い、生々しい言葉で大事な内容だった。もっと多くの人に聞いてほしいと感じた。
- ・ とても明快で、ざっくばらんで、面白かったです。勢いが伝わってきて楽しく思います。「沖縄がカナリアとなって日本全体に広がる危機を歌っている。毒ガスを吸いながら」、「憲法のもとに帰ったはずなのに日米安保が上にある」という言葉には、ずきつきました。
- ・ 沖縄の方で、ジャーナリスト … 率直というか、話の中に心があるなど感じました。長い時間でも退屈しませんでした。枯葉剤の影響や北部の地面の中に埋まっている話など、気になりました。
- ・ 沖縄の人々の歴史と今の課題を、今後も他人事ではなく自らの課題・問題として取り組みたい。
- ・ しまんちゅうんの人たちにだけおしつけている、それを分かっていない本土の人間、という歯がゆさが良く分かりました。
- ・ ちょっと早口でしたが、「ひざまづき外交」ということは良くわかりました。
- ・ 迫力のある現地の声を生で聞くことができ、改めて現地の人の怨念のようなものを感じました。本州人も共有しなければいけませんね。翁長知事を応援します。
- ・ 琉球新報の方で、まだ若いのに、いろいろな情報をおもちでした。また質問に対してもいろいろとお話を聞けましたが、差別をしている私たち本土の人間を深く心にしました。(私は沖縄返還後1年のころに行きました。大好きです。)
- ・ お話で現地の実感がこもっていて実情が良く分かり、米軍基地の撤去がぜひとも必要だと感じました。



講演をする新垣 毅さん

3 今日の集い全体について、ご感想・ご意見など

- ・ 自分も含めて年輩の方が多く、若い人を誘いたいね。
- ・ 東演の劇場をお借りでき、雰囲気もあり、うたにもお話にも集中できました。
- ・ 次世代を担う若者が参加しやすい企画立案を
- ・ 東演パラータは地理的にわかりにくいところでしたが、思ったより参加者が多く成功だったと思います。

憲法記念日によせて・うたと講演のつどい アンケート より(続)

4 代田・九条の会の取り組みについての希望や提案など、

- 憲法関連の書籍の紹介や駅前宣伝など、企画以外の日常的な活動は、考えているのですか

5 その他(何でも結構です)

- 新しい人、若い人に参加してもらうにはどうしたらよいでしょうか
- 私も大阪機動隊の若者のヘイト的な言葉にはビックリしたショックでした。人に対する汚い言葉かけは、どんな場合でも許してはならないと思いました。
- 新垣さんの講演について。参考資料が映像でみられたらもっと効果的でした。周到的準備とリハーサルは講演者に対しての礼儀です。

憲法記念日によせて・合唱と講演のつどい:感想

私が代田九条の会に参加させていただいたのは今回で2回目です。私自身は生来のノンポリ人間でどこの政党を支持するものでもなく、全くの白紙人間です。こんな人間が65歳の定年以降屋外を散歩中に偶々通りかかった下北沢の教会近くで代田九条の会を知り、沖縄音楽の興行もあったので覗いてみたのがきっかけでした。当時国会で自民党が安保法制をマキアベリの権謀術策の論理で無理やり強行採決した当時でした。流石にこの白紙人間でさえも怒りを覚え次世代の娘ファミリーも帯同して生まれて初めて一般人として国会のデモに参加しました。それ以来私の思いを共有する場として代田九条の会を賛同支持させていただいております。

戦後生まれの私ですが70年近く世の戦争に巻き込まれず何気なく平和に過ごしてきたのも今思えば平和憲法9条のおかげであったのだとつくづく現憲法のありがたさを感じています。そんな荘厳な憲法を劣後の安保法制によって捻じ曲げさらには憲法改悪を語る現政権を到底許せるわけありません。武力戦争によって得られる平和などないことは歴史が如実に語っています。人類の長い歴史が残した教訓を軽んじ目先の戦争ごっこに駆り立てようとする現政権は余りに浅はかで要地であり教養がありません。万が一、数の論理で国会を通しても最後の砦の国民投票では国民が一体となって阻止する素地を今から啓蒙していくべきと思います。

その一環として今回のつどいが開かれたわけでもあり地道に啓蒙活動をしていくことが大事だと思います。今回のつどいで感じたこと、若い人たちが少ないことです。韓国、フランスの最近の選挙であったように若い人たちが立ち上がれば大きな力になるでしょう。

最後に今回のゲストスピーカーの琉球新報の新垣毅さんの解説に触れることができたらためて沖縄の方の犠牲と忍耐の歴史を生々の声で聴くことができたのは心に響きました。

せっかくPCによる写真、資料をご用意いただいたのにトラブルで拝見できなかったのは残念でした。効果を無にしないためにも事前にリハーサルをしておくべきだったと思います。写真データなしで迫力ある解説をしてくださった新垣編集委員に感謝の意を表します。

ご参考まで私個人としては現憲法擁護の憲法学者で首都大学教授の木村草太先生の解釈が一番しっかりと感じています。(代田4丁目・高野 治)

2016年4月7日

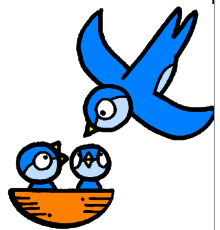
『琉球新報社の方お断り！』

琉球新報・昨年4月のコラム。
新垣さんが、東京に赴任する際に経験されたこと。こんなことが実際にあるのか、と言いたくなってしまいます。でも結果としては良かった。

金口木舌

緊張した子どもたちの表情が目に見え。きょう内多くの小中学校で始業式が行われる。新年度が始まる新たな門出に、期待だけでなく不安もあるだろう▼4月から東京支社に赴任することになり、部屋探しで3月に上京した。好条件の物件に入居を申し込んだら「琉球新報」を理由に断られたことをコラムに書いた(3月20日付8画記者の窓)。門出を前に不安が募ったが、反響に勇気づけられた▼知人友人20人以

上から激励され、本土メディア6社から取材依頼があった。在京県出身者からは「うちの2階が空いている。使ってほしい」とも。最終的に決めた部屋の大家は「琉球新報、沖縄タイムスのような新聞社に貸したかった」と家賃を大幅に下げてくれた▼結局、当初の部屋より好条件になった。「捨てる神あれば拾う神あり」とはこのことだ。明るい気持ちになった。報道圧力があっても前を向く意欲が一層湧いた▼障がい理由にアパートが借りられなかった経験のある宮城かし子さんは1日の「障害者差別解消法」施行を祝うパレードで、こう訴えた。「障がいのある人もない人も、人として当たり前の社会生活を送り、共生社会を実現したい」▼逆境に遭っても、絶えず前を向く人の言葉は胸を打つ。新たな決意で始業式を迎える児童生徒は心にとどめてほしい。「前を向けば必ず道は開ける」



日本国憲法施行 70 年「九条の会」講演会に参加して

“憲法破壊の政治はやめさせよう”と6月2日、杉並公会堂で18時から2時間半にわたって開かれた講演会は、会場いっぱい1100名の参加者で熱気にあふれていました。

日本フィル交響楽団楽友による弦楽四重奏で幕を開け、小森陽一さん（九条の会・事務局長）が開会のあいさつ。続いて呼びかけ人で作家の澤地久枝さんが「憲法記念日に、憲法9条に自衛隊を明記すると発表した安倍首相の改憲論は本当にひどい。亡くなった小田実さんの『憲法を守り続ける、というひとりひとりの小さな努力が世界を変える』という言葉信じて、がんばりましょう」と述べ、会場からいっせいに「そうだ！」の共感の声と拍手が上がりました。

続いて九条の会世話人の愛敬浩二、浅倉むつ子、池内了、池田香代子、伊藤千尋、伊藤真、内橋克人、清水雅彦、山内敬弘の諸氏がそろって憲法九条を守り、九条の理念を世界に広める事こそ日本の役割だという訴えに心から共感しました。

昭和20年8月15日に北朝鮮で敗戦を迎えた時、私は国民学校五年生でした。その年の5月に、叔父と私の父は召集され、叔父は南方で戦死、父はシベリヤに3年抑留されました。敗戦を早く認めていれば、東京空襲も、沖縄戦も、原爆もさげられたわけです。引揚げ後、新制中学一年で「憲法9条」を学んだ時の感激を忘れることはありません。（羽根木1丁目・伊藤 薫）



集会等の紹介

6月20日（火） 18:30～ **九条の会事務局主催 学習会**

講演： ①「安倍首相の改憲発言－その憲法論的検討」

浦田一郎さん（一橋大学名誉教授・憲法学）

②「安倍首相の改憲発言－そのねらいと危険性」

渡辺 治さん（一橋大学名誉教授・政治学・九条の会事務局員）

会場：韓国 YMCA 地階スペース Y

（JR 水道橋駅から徒歩6分、御茶ノ水駅から徒歩9分、

地下鉄神保町駅から徒歩7分）

8月11日（金・山の日） 13:30～ **終戦記念日によせて（計画中）**

映画「はだしのゲン」上映会

代田・九条の会

日本国憲法（抜粋）

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。

国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめてみましょう～

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。